

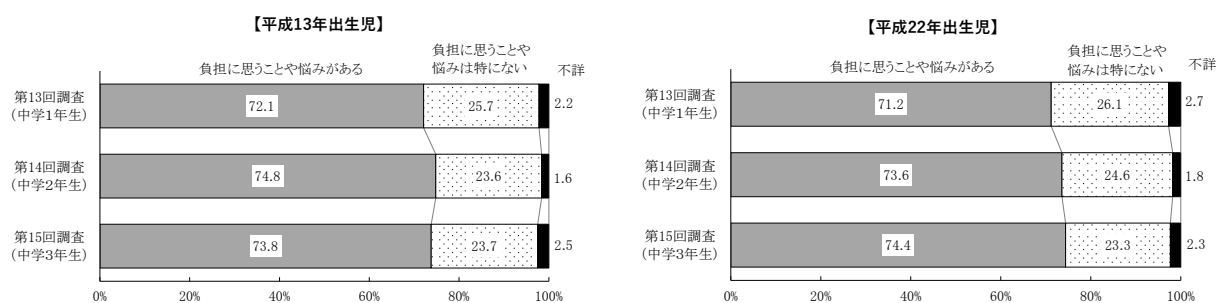
2 子育てについて保護者が負担に思うことや悩みの変化

平成22年出生児について、こどもが中学生の間の子育てについて保護者が「負担に思うことや悩みがある」とした割合は各調査回とも7割以上であり、その内容（複数回答）をこどもの性別にみると、「こどもの将来（進路など）に関すること」や「こどもの成績に関すること」では男児の保護者のほうが割合が高く、「こどもの交友関係に関すること」では女児の保護者のほうが高くなっている

平成22年出生児について、こどもが中学生（第13回調査から第15回調査まで）の間の子育てについて保護者が負担に思うことや悩みの変化をみると、「負担に思うことや悩みがある」とした保護者は各調査回とも7割以上であり、この傾向は平成13年出生児と同様である（図3）。

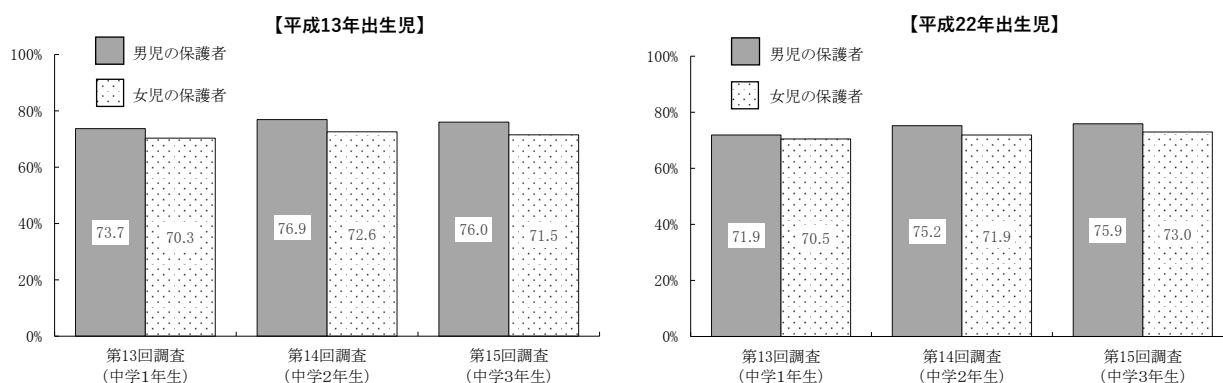
また、「負担に思うことや悩みがある」とした保護者の割合をこどもの性別にみると、各調査回とも女児の保護者より男児の保護者のほうが約1～3ポイント高く、男児の保護者のほうが高い傾向にあることについては、平成13年出生児と同様である（図4）。

図3 こどもが中学生の間の子育てについて保護者が負担に思うことや悩みの変化・世代間比較



注：第13回調査から第15回調査まですべて回答を得た者（平成13年出生児 26,957、平成22年出生児 17,757）を集計。

図4 こどもが中学生の間の子育てについて保護者が負担に思うことや悩みがある状況の変化・世代間比較

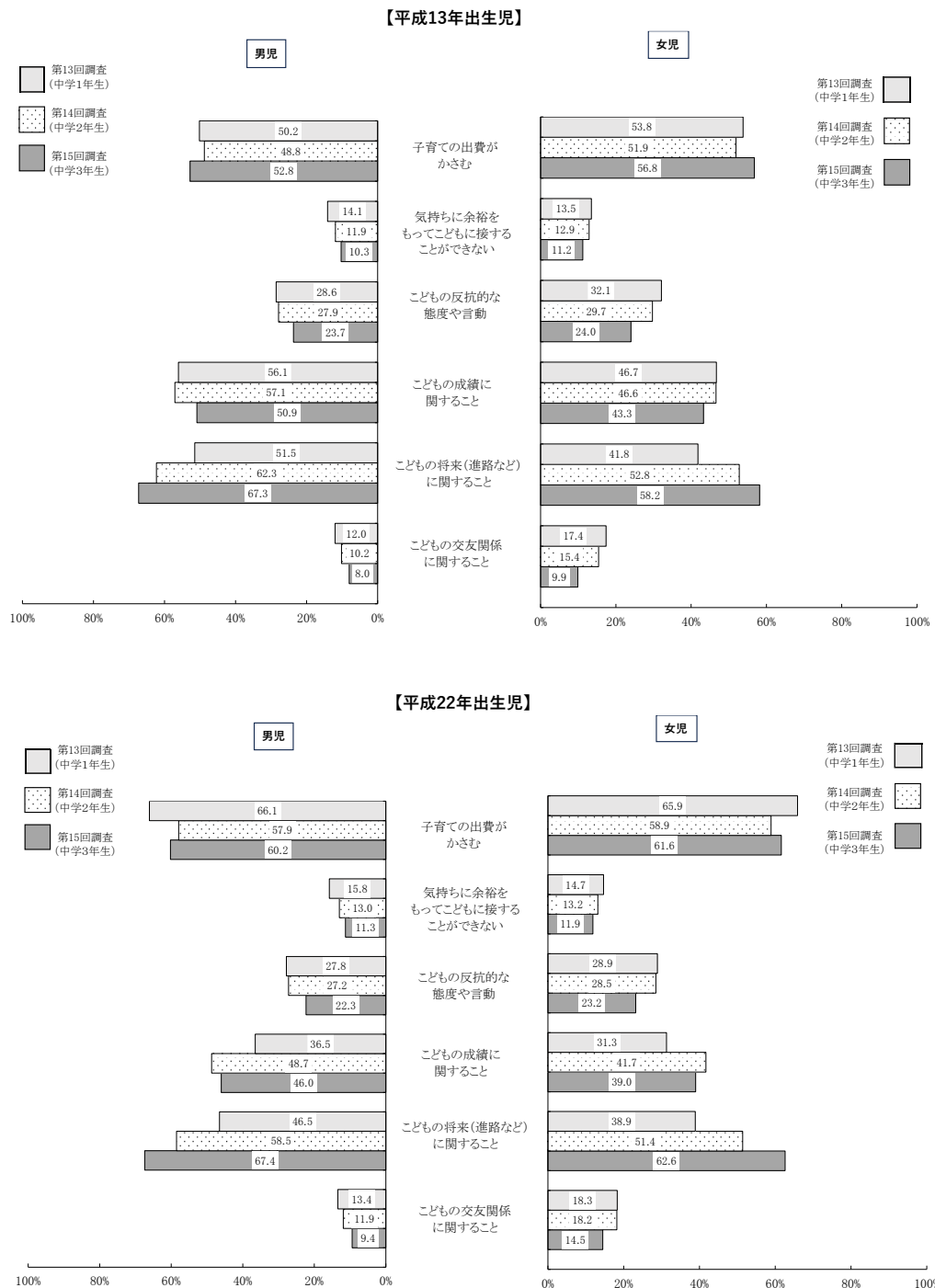


注：第13回調査から第15回調査まですべて回答を得た者（平成13年出生児 26,957、平成22年出生児 17,757）を集計。

平成 22 年出生児について、子育てについて「負担に思うことや悩みがある」とした保護者の悩み等の内容（複数回答）をこどもの性別にみると、第 15 回調査（中学 3 年生）では男児・女児の保護者とも「こどもの将来（進路など）に関すること」の割合が最も高く、次いで「子育ての出費がかさむ」となっており、この傾向は平成 13 年出生児と同様である。

また、各調査回とも「こどもの将来（進路など）に関すること」や「こどもの成績に関すること」では女児の保護者より男児の保護者のほうが割合が高く、「こどもの交友関係に関すること」では男児の保護者より女児の保護者のほうが高くなっている。この傾向も平成 13 年出生児と同様である。（図 5）

図 5 子どもが中学生の間の子育てについて保護者が負担に思うことや悩みの内容（複数回答）の変化・世代間比較【主な 6 つ】



注：第 13 回調査から第 15 回調査まですべて回答を得た者のうち、「負担に思うことや悩みがある」とした者（平成 13 年 出生児 第 13 回調査 19,430、第 14 回調査 20,168、第 15 回調査 19,902、平成 22 年出生児 第 13 回調査 12,643、第 14 回調査 13,066、第 15 回調査 13,219）を集計。